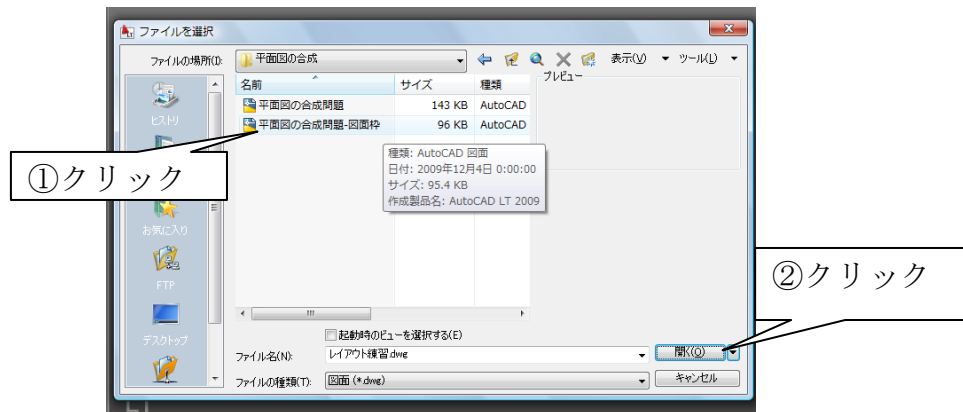
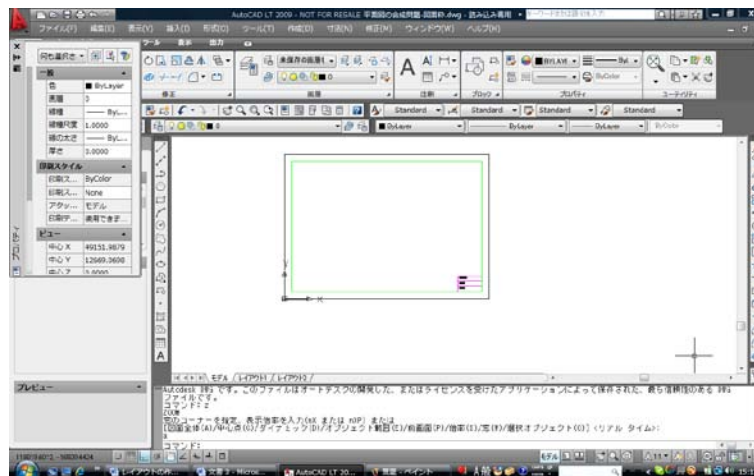


## 平面図面の合成に関する練習問題

手順 1、「ファイル」から「開く」を選択します。

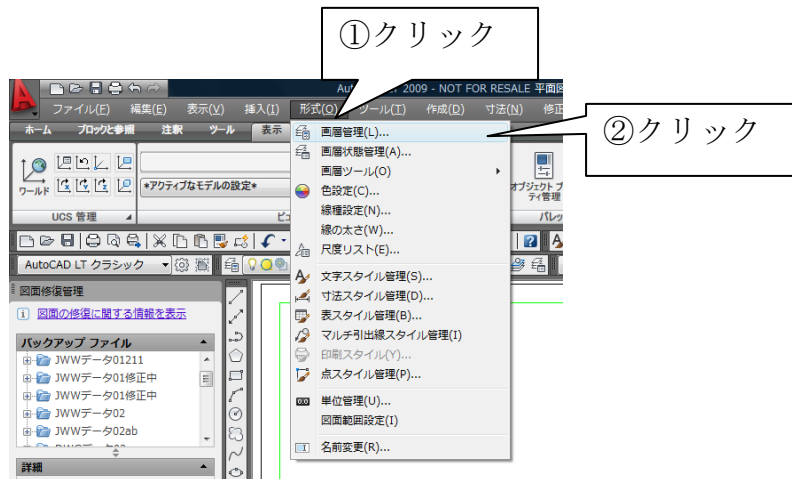


手順 2、CRT 画面にデータを表示します。



課題①、既存の画層を削除する。

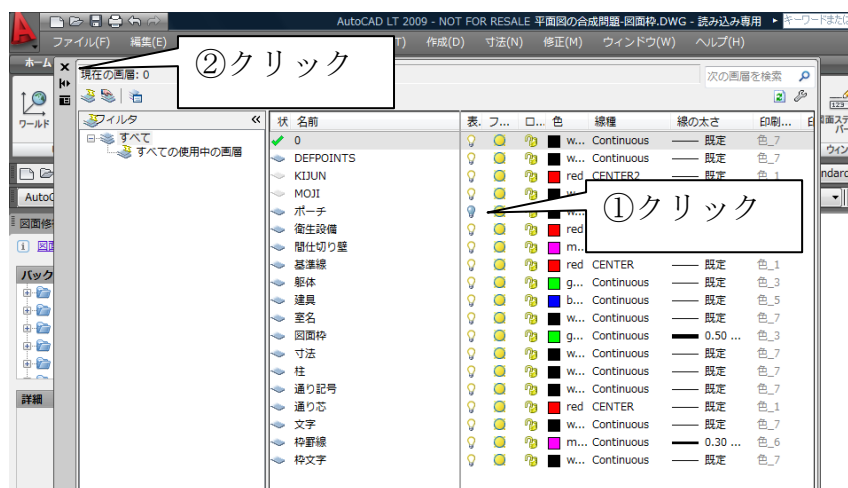
手順①「形式」メニューの「画層管理」を選択します。



手順② 画層プロパティがひらきます。

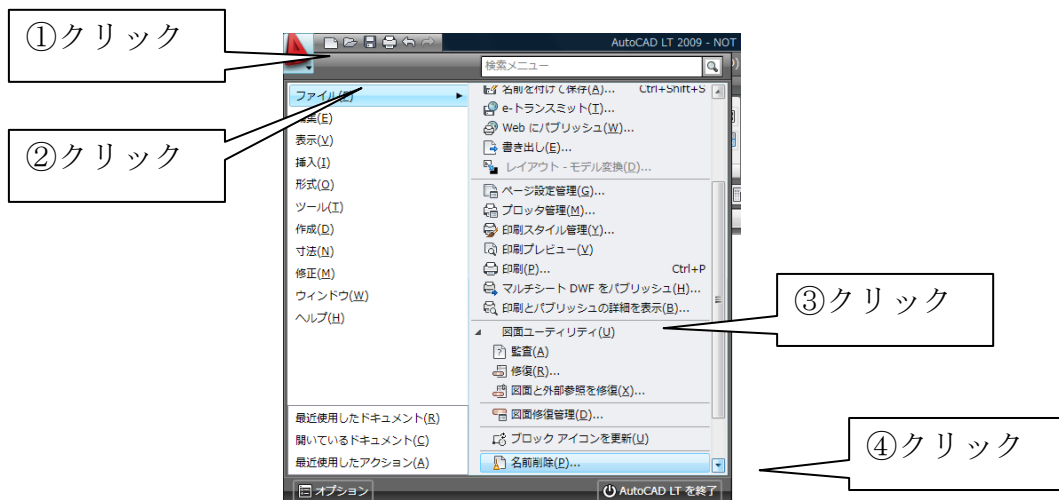
「非表示」と「フリーズ・ロック」された画層がないか調べます。

この場合、「ロック」されていた画層を「表示」に変更します。



注記) オブジェクトを編集する時は、画層管理を開き画層の状態「表示・非表示・フリーズ・ロック」を確認して編集をしましょう。

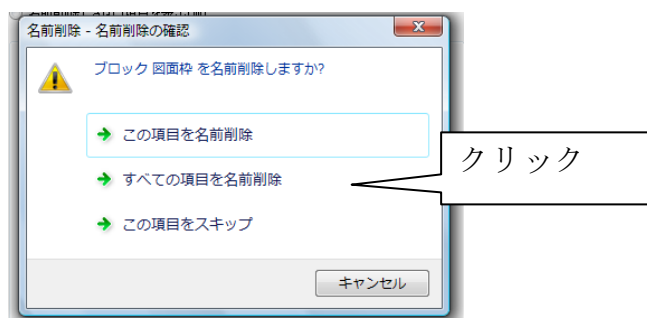
手順③ 「ファイル」メニューの「図面ユーティリティ」の項目  
「名前削除」を選択します。



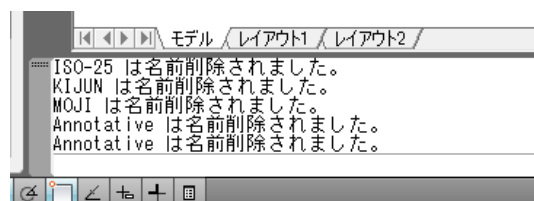
手順④ 「名前削除」のダイアログが開きます。



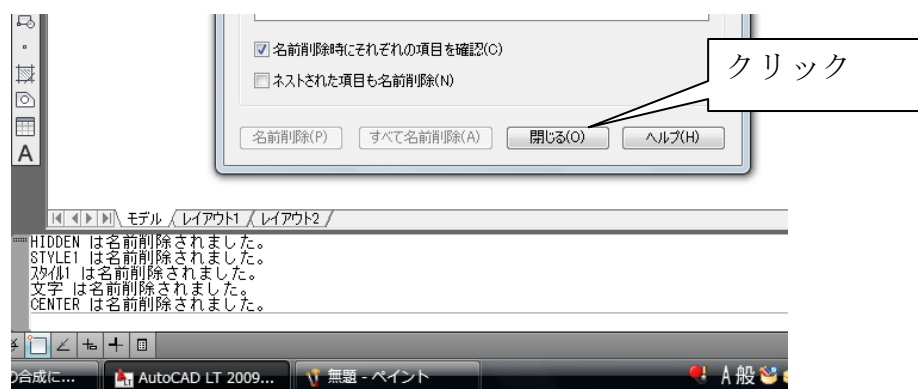
手順⑤ 「名前削除・名前削除の確認」が開くます。



手順⑥ 削除された項目がコマンドラインに記入されます。



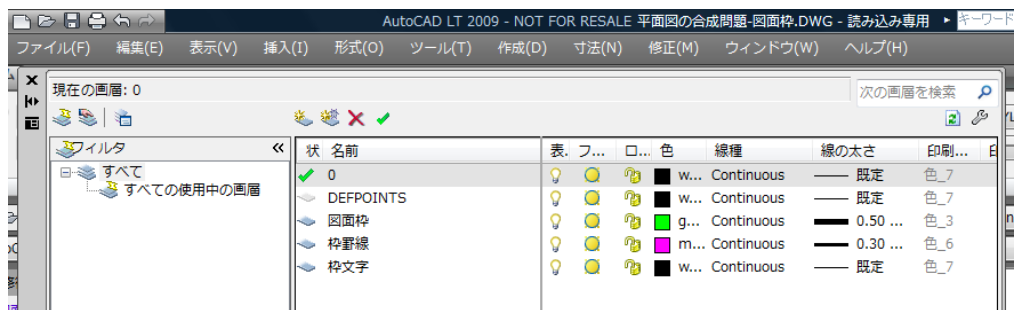
手順⑦ 「閉じる」 ボタンが表示するまで「名前の削除」 ボタンを選択します。



手順⑧ 再度「形式」メニューの「画層管理」を選択します。



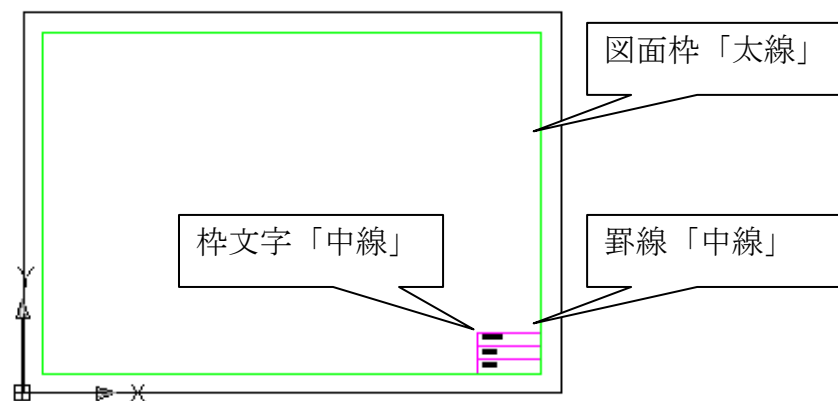
手順⑨ 画層プロパティがひらきます。



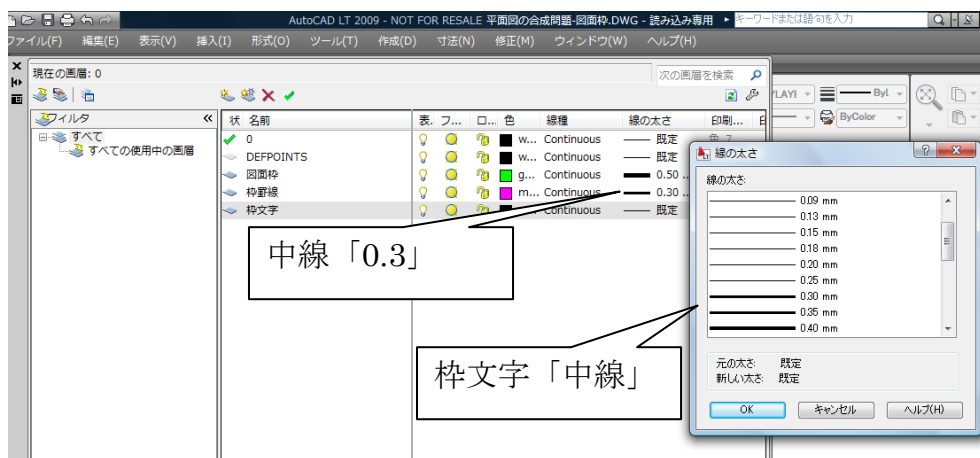
それぞれの画層を「非表示」にして分類去れている事を確認します。

課題②、線の太さが「太線・中線・細線」表記ができる「色設定」にする。

手順① 図面枠の「線の太さ」を設定します。



手順② 「形式」メニューの「画層管理」で各画層に太線「0,5」、中線「0.3」、細線「0,1」を設定します。

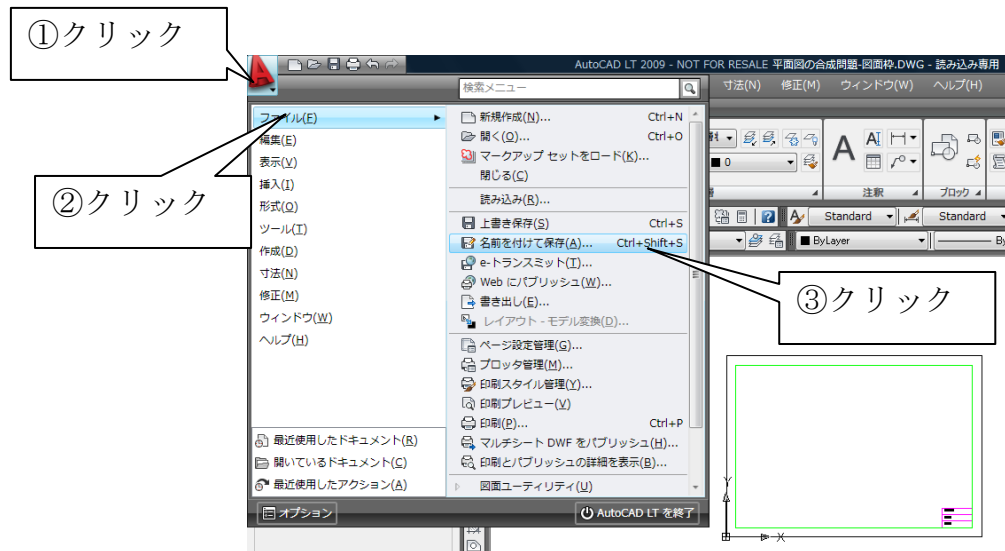


手順③ 「線の太さ」を設定します。

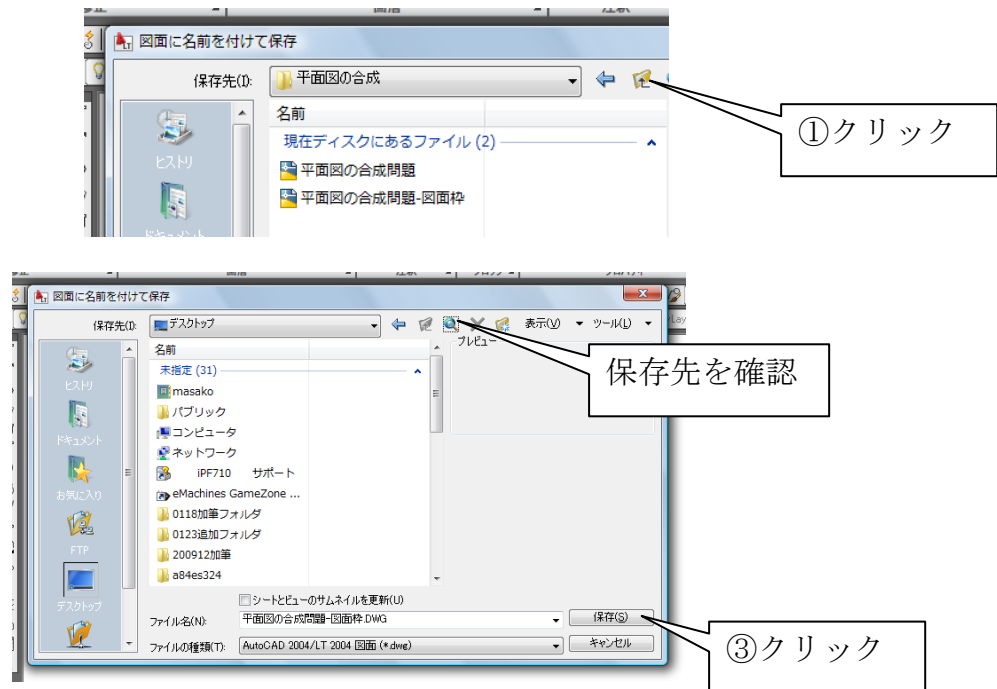


課題③、修正した図面ファイルを保存する。

手順①「メニューブラウザ」から「ファイル」メニューの「名前を付けて保存」を選択します。

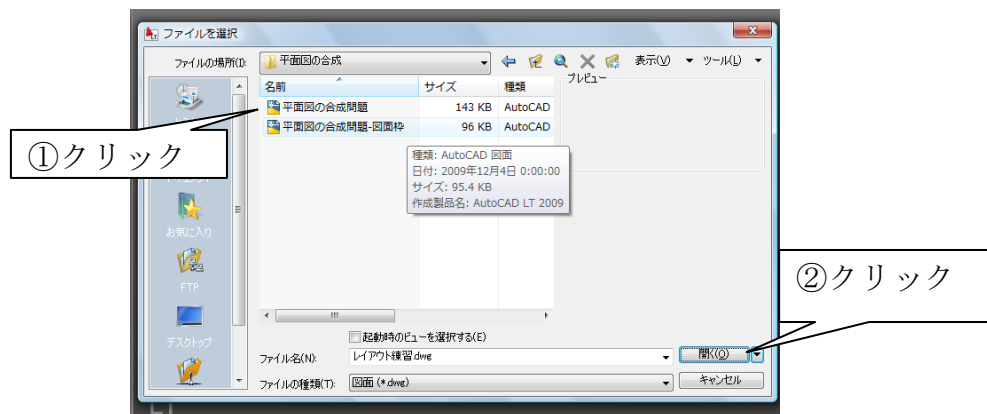


手順② 「保存先」をデスクトップに変更して保存してください。

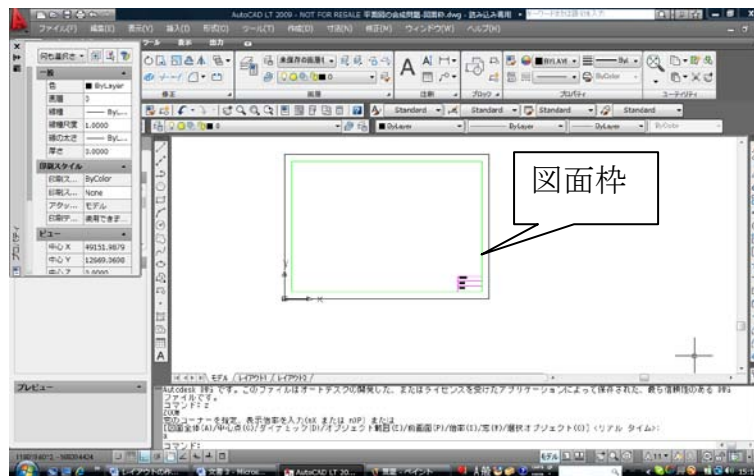


課題④、「平面図の合成問題」のファイルを開き各階の平面図を図面枠に挿入する。

手順①、「ファイル」から「開く」を選択します。

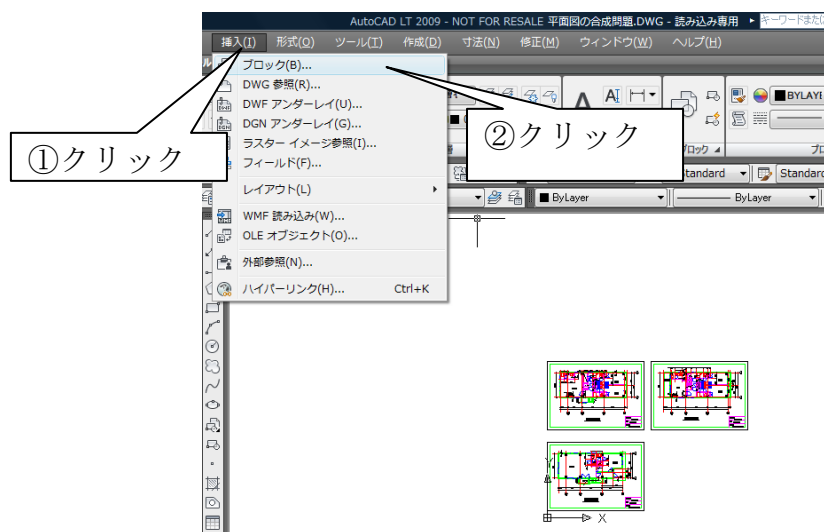


手順②、CRT 画面にデータを表示します。

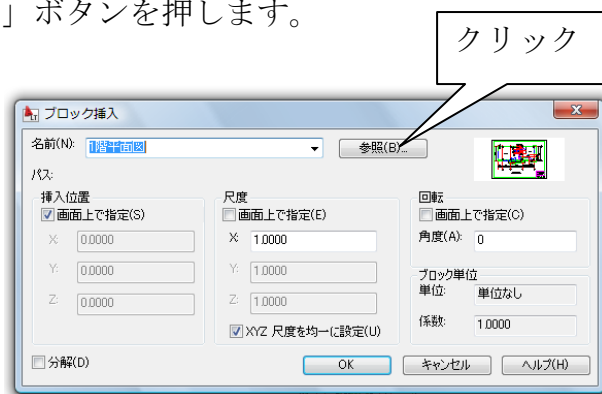




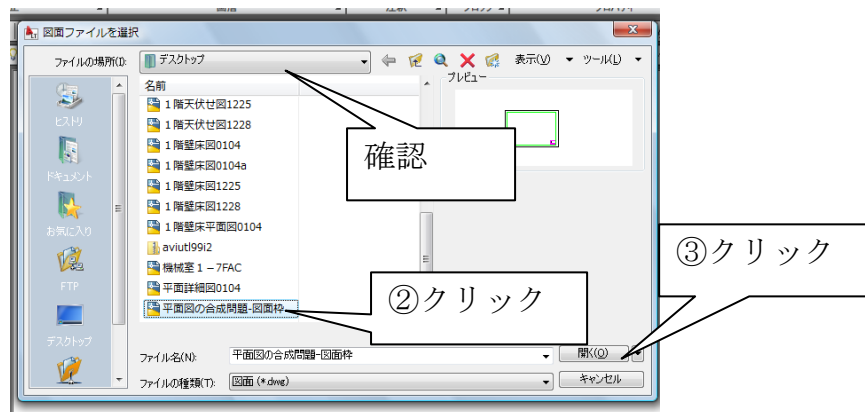
手順③ 「挿入」メニューの「ブロック」を選択します。



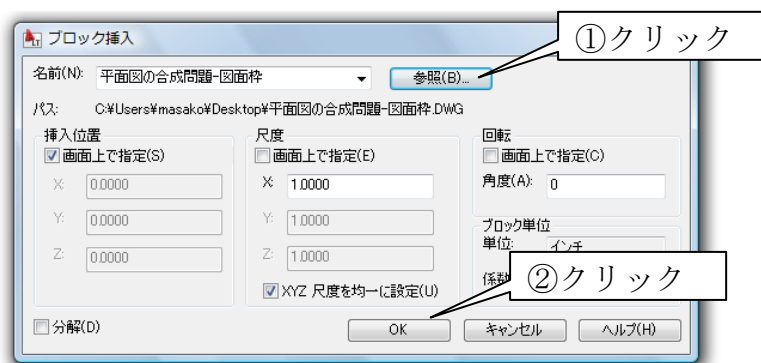
手順④ 「参照」ボタンを押します。



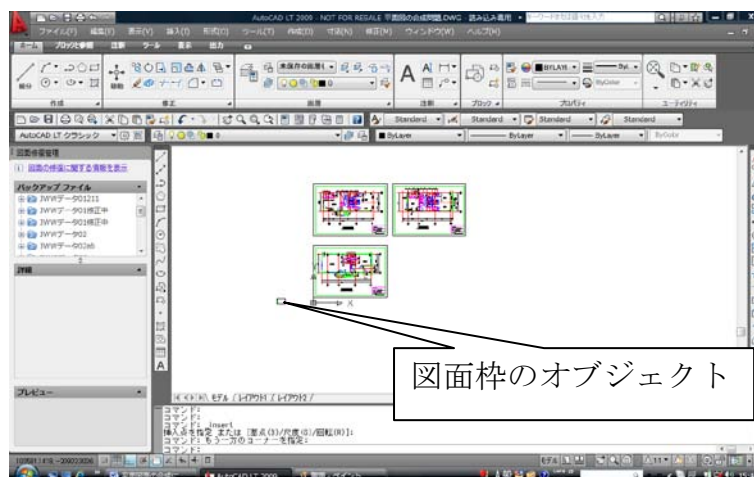
手順⑤ ファイルの場所を選択し、「平面図の合成問題一図面枠」を選択し「開く」を押します。



手順⑥ 「OK」 ボタンを押します。

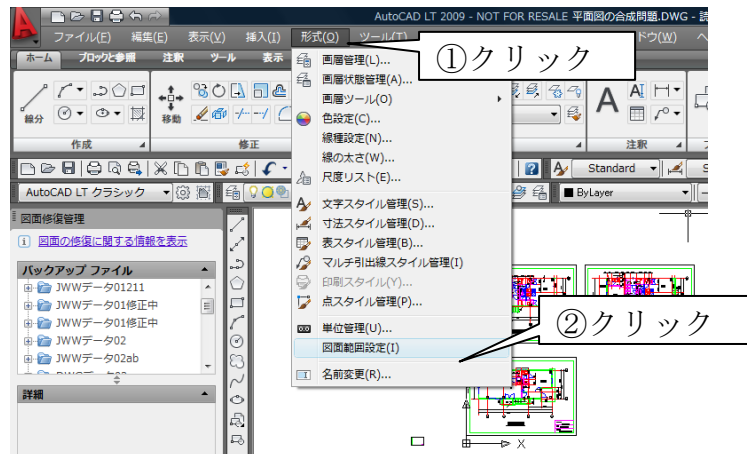


手順⑦ CRT 画面に図面枠が表示します。

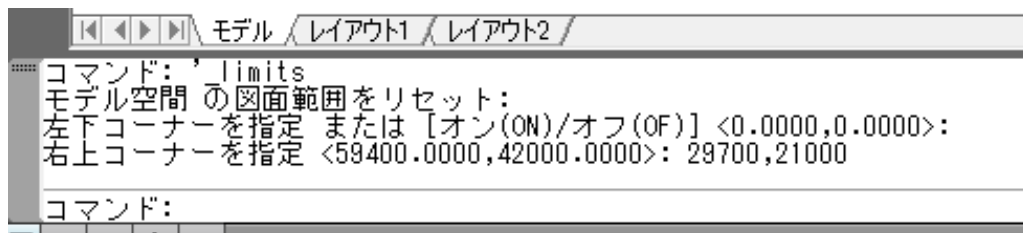


- 図面範囲を設定します。

手順①「形式」メニューの「図面範囲設定」を選択します。

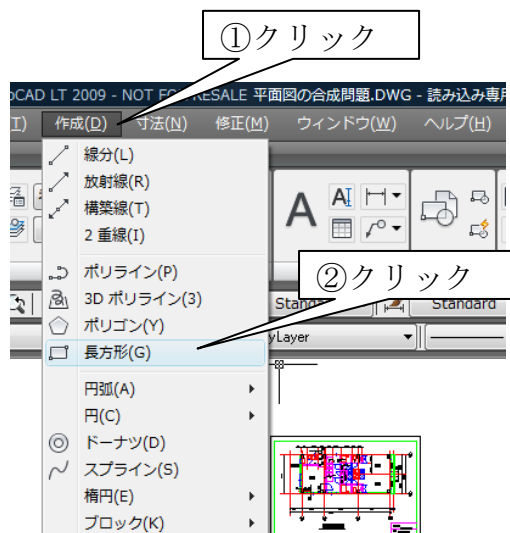


コマンドラインに、用紙サイズ A2・尺度 1/50 に設定します。

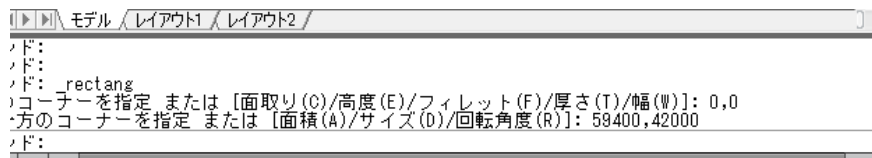


- 図面範囲で設定した数値で、長方形を作成します。

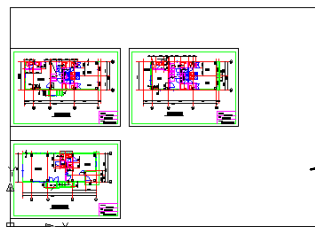
手順① 「作成」メニューの「長方形」を選択します。



手順② コマンドラインを参照にして数値を入力します。



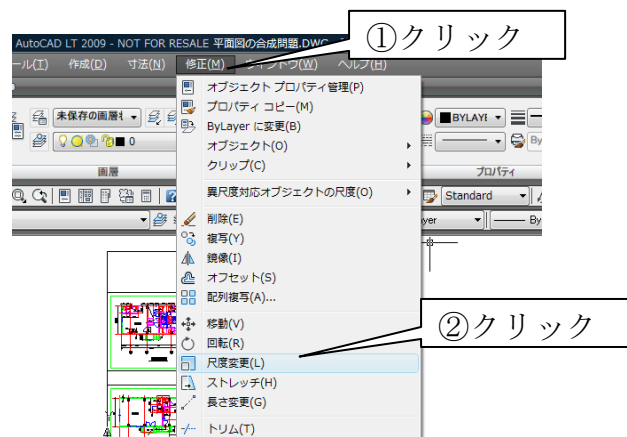
CRT 画面に挿入した  
図面枠が表示します



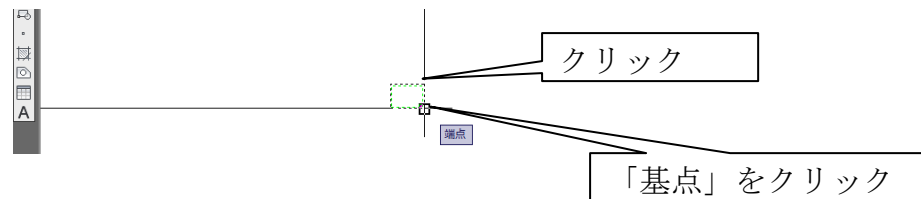
CRT 画面に長方形が  
表示します

- 図面枠の尺度を変更します。

手順① 「修正」メニューの「尺度変更」を選択します。



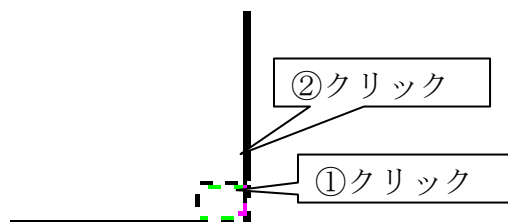
手順② 図面枠を選択します。



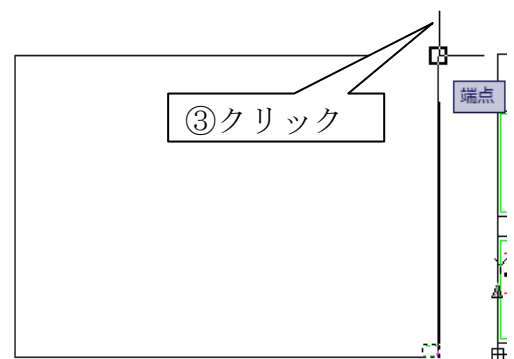
コマンドラインに従い作業します。

モデル / レイアウト1 / レイアウト2 /  
基点を指定:  
尺度を指定 または [コピー(C)/参照(R)] <1.0000>: r  
参照する長さを指定 <1.0000>: 2 点目を指定:  
新しい長さを指定 または [点を指定(P)] <1.0000>:  
コマンド:

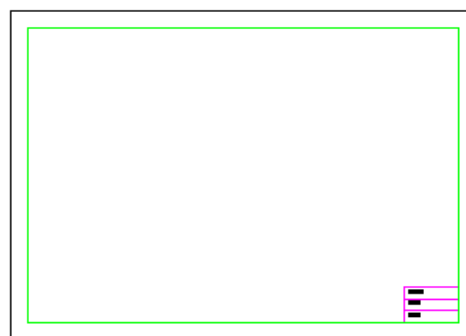
参照する長さ



新しい長さ

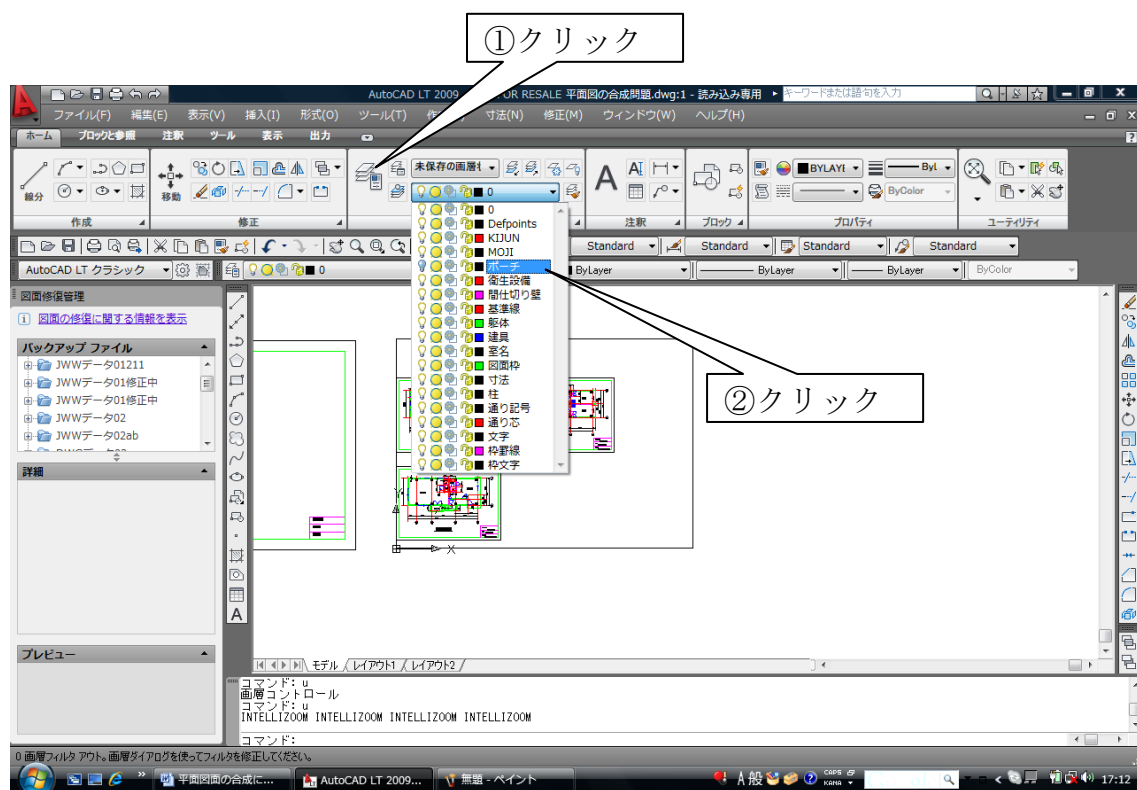


手順③ 図面枠の尺度が変更されました。

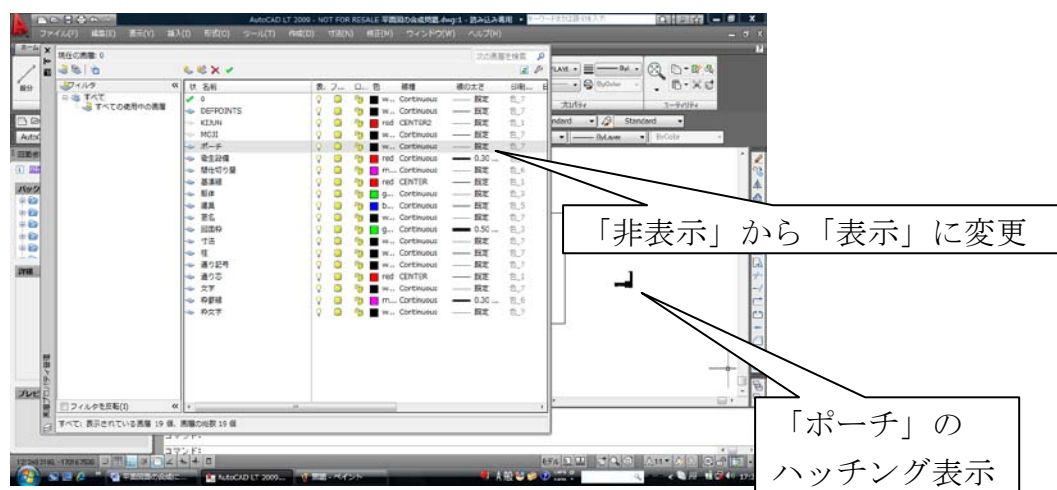


- 図面枠に平面図を配置します。

手順① 「ホーム」メニューの「画層管理」を開きます。



手順② 「画層プロパティ」のポーチ画層を表示させます。

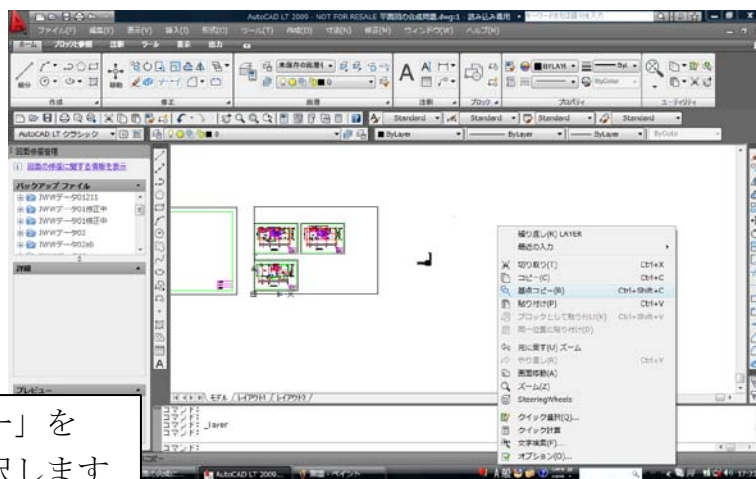


手順③ ポーチのハッチングを一階平面図に配置します。

● 基点コピーを利用して配置する方法。

手順① CRT 画面上で、マウスの「右ボタン」を押します。

画面が開き「基点コピー」が選択できるようになります。

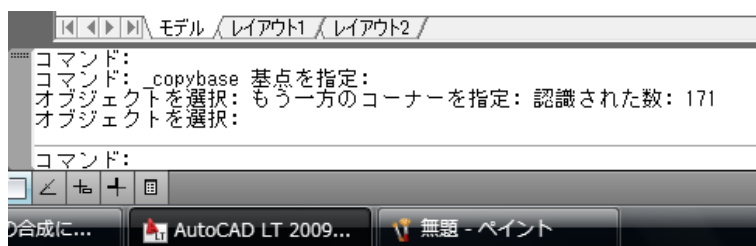


「基点コピー」を  
マウスで選択します

手順② 挿入基点を決め「ポーチ」のハッチングを選択します。

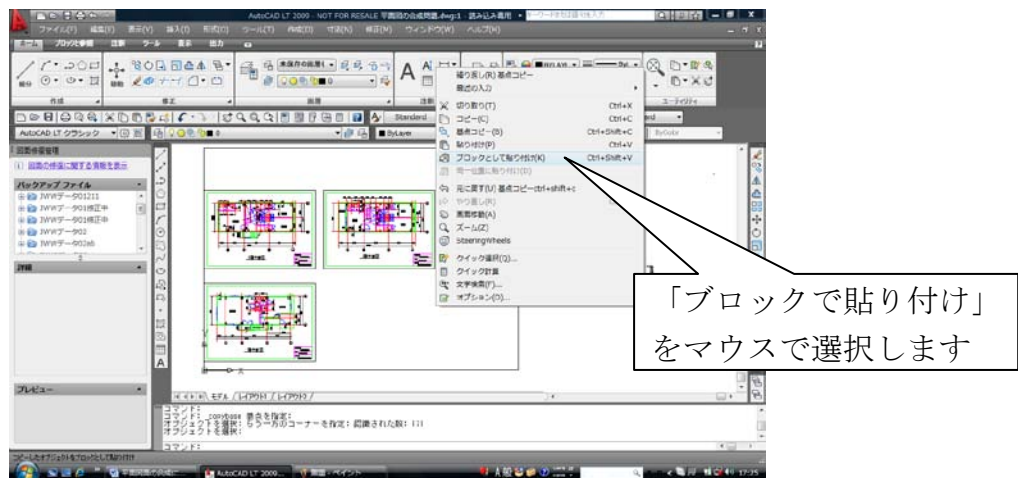


手順③ コマンドラインを参照します。





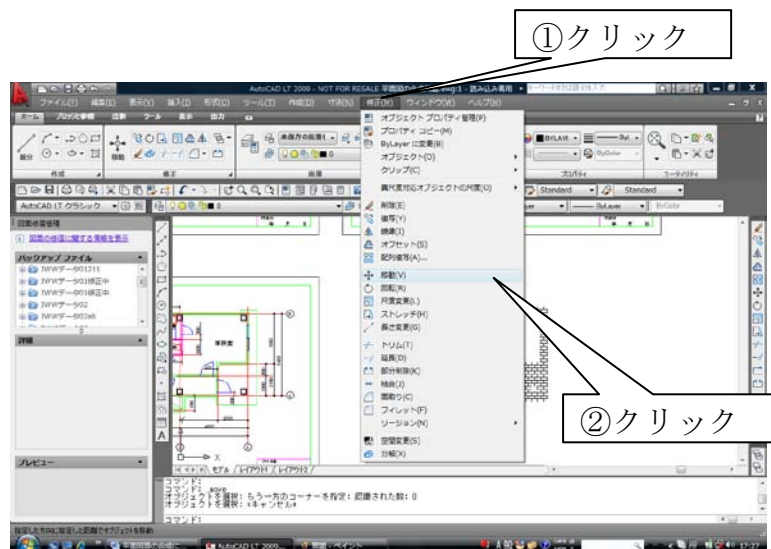
手順④ 貼り付け方法をマウスで選択します。



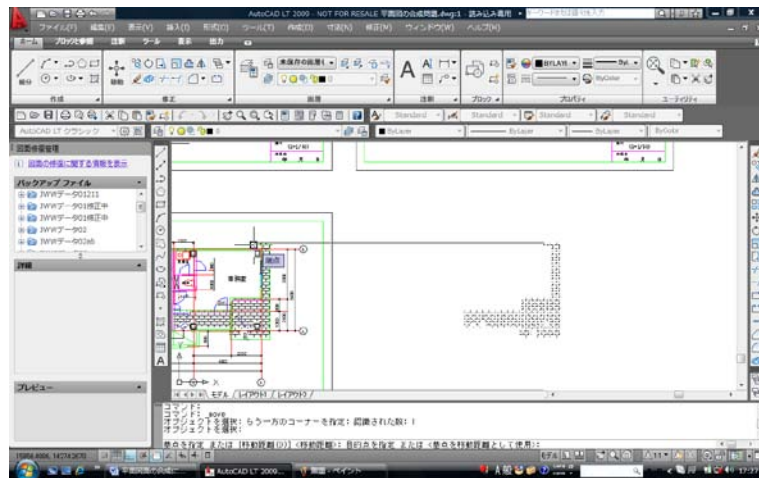
手順⑤ オブジェクトを貼り付けます。

- 基点がずれた場合は、次の操作を実行します。

手順① 「修正」メニューから「移動」を選択します。

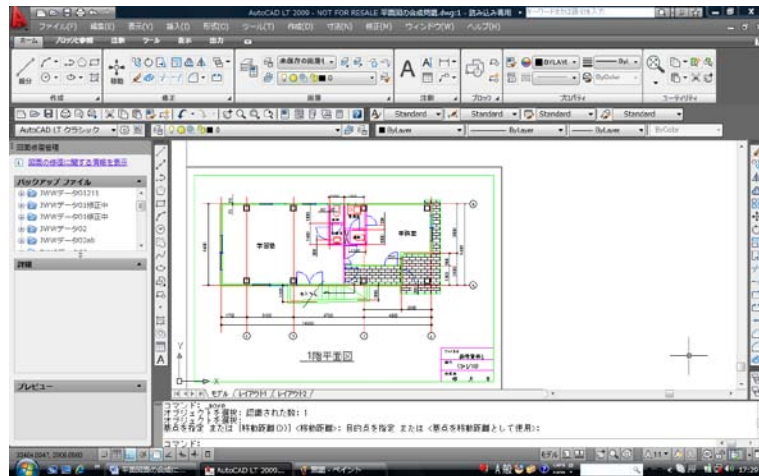


手順② オブジェクトを移動します。



手順③ 「ポーチ」のハッチングを定位置に配置します。

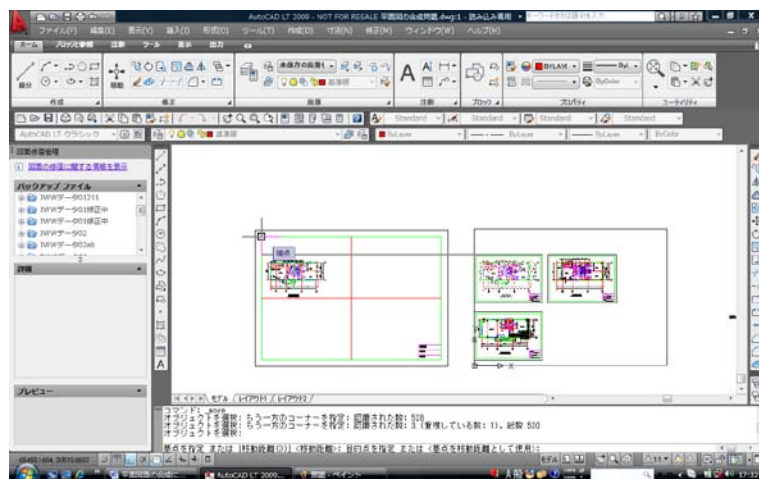
一階の平面図を完成させます。



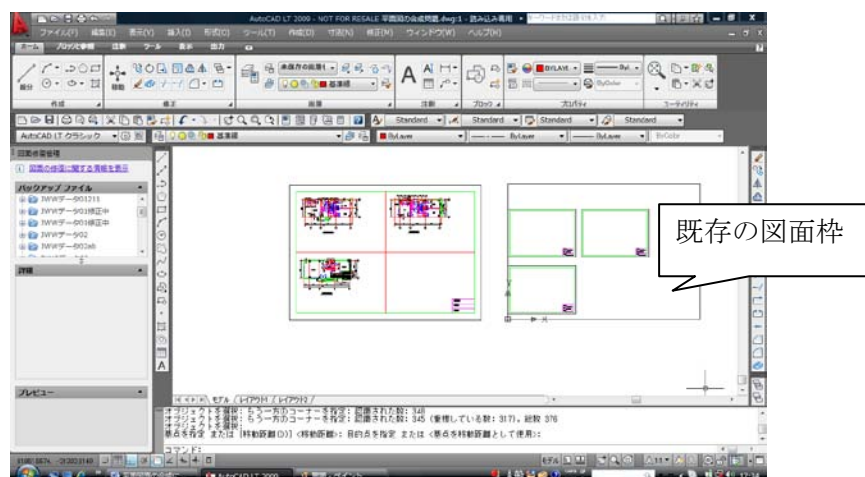
- 図面枠内に各階の平面図を移動します。

図面枠内に線分を引き平面図が配置出来るようにします。

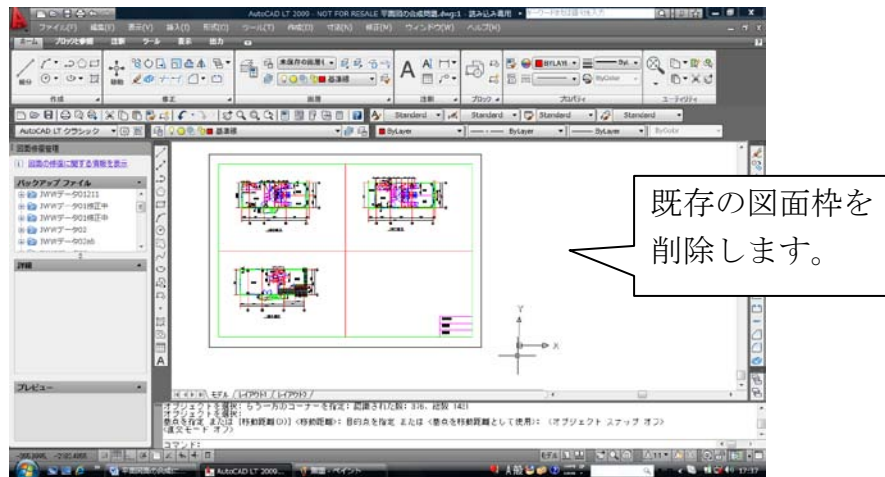
手順① 「修正」メニューから「移動」を選択後、既存の図面枠以外のオブジェクトを移動します。



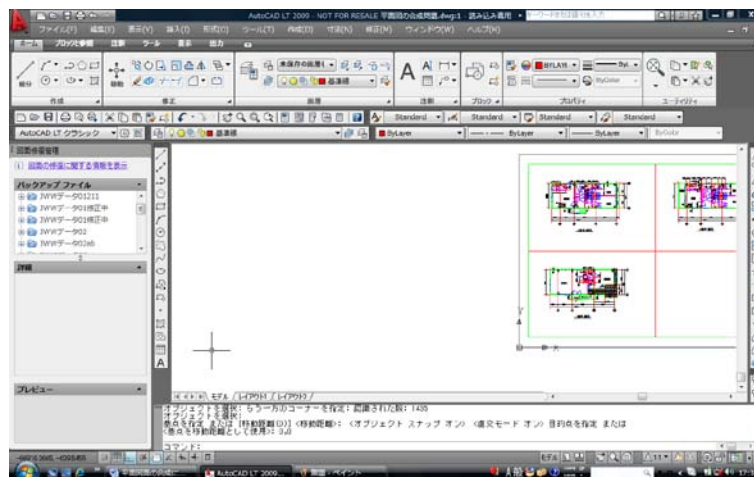
手順② 各階の平面オブジェクトを配置します。



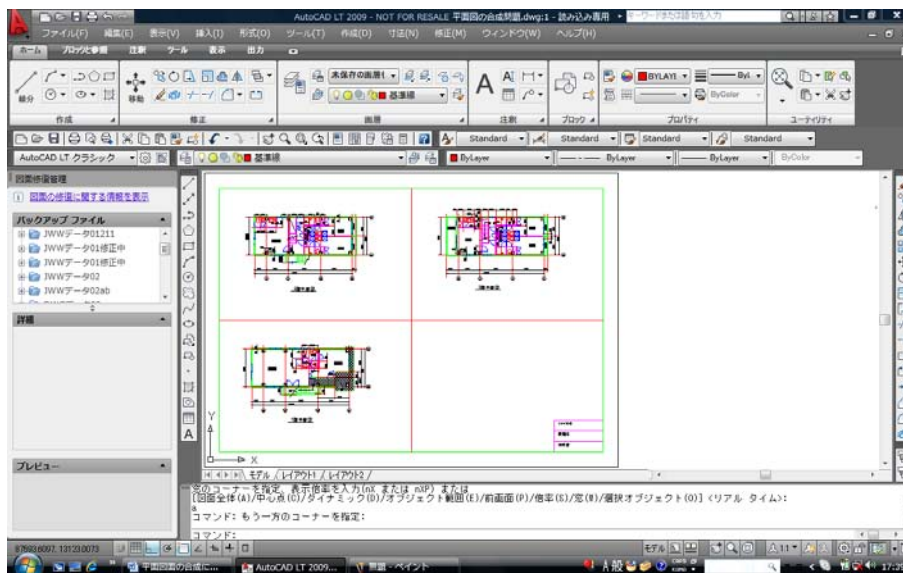
手順③ 右側のオブジェクトを削除します。



手順④ 図面枠の「左下コーナー」を「0,0」に移動します。



手順⑤ CRT 画面に、データが表示します。



罫線枠内に必要な文字を記入します。